

第3次食育推進基本計画(2016~2020年度)

食育の環と 5つの 重点課題

実践の環を広げよう

重点
課題
1

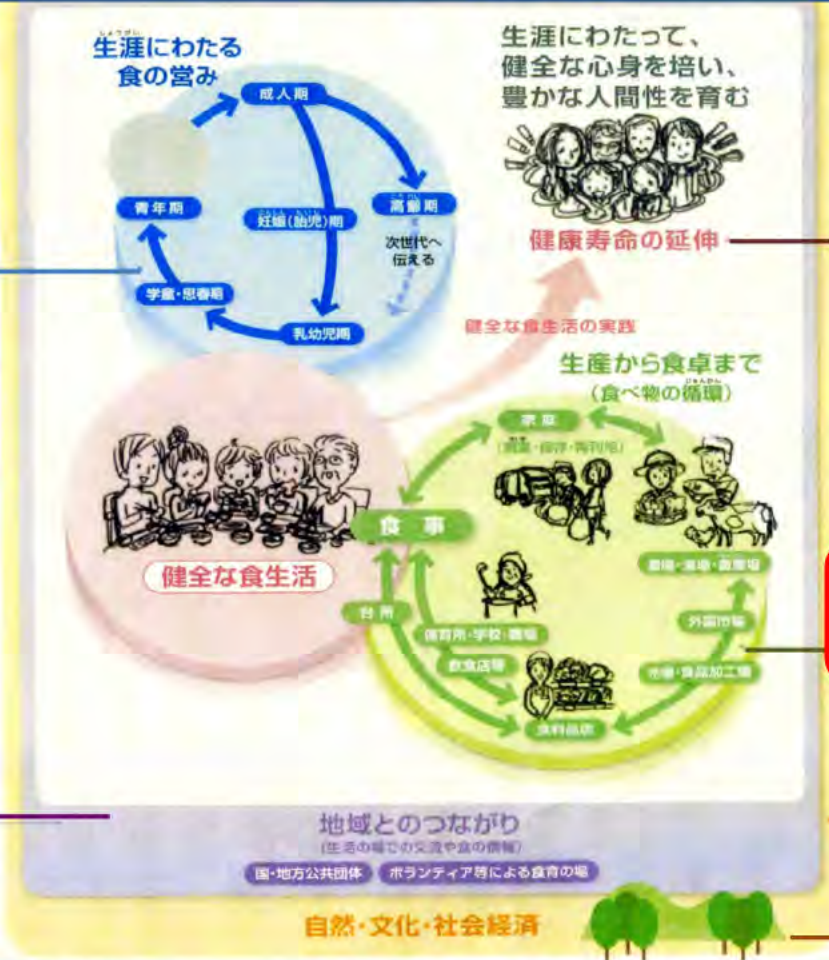


若い世代を中心とした
食育の推進

重点
課題
2



多様な暮らしに対応した
食育の推進



重点
課題
3

健康寿命の延伸に
つながる食育の推進

重点
課題
4

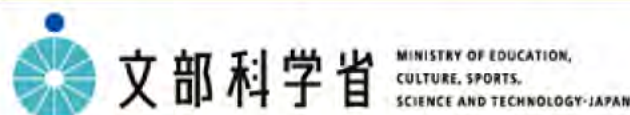
食の循環や環境を
意識した食育の推進

重点
課題
5

食文化の継承に向け
た食育の推進

現代の若い世代(20・30歳代)への食育強化はもちろん、
次世代(子ども)に向けた根本的な食育推進が望まれる

■ 子どもの発達段階に重要な事項



3. 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題

(子どもの発達段階に応じた支援の必要性)

子どもは、身近な人や自然等との関わりの中で、主体的に学び、行動し、様々な知識や技術を習得するとともに、自己の主体性と人への信頼感を形成していく。

「子どもの発達にふさわしい生活や活動を十分に経験することが重要である。特に、身体感覚を伴う多様な経験を積み重ねていくことが子どもの発達には不可欠であり、これらを通して、子どもの継続性ある望ましい発達が期待される。こうした観点を踏まえつつ、2. (1)で述べたような、現代の子どもたちをめぐる社会環境も考慮し、子どもの発達やその課題を踏まえた適切な対応と支援を、従来より一層、行っていくことが、重要である。

○ 子どもはひとりひとり異なる資質や特性を有しており、その成長には個人差がある一方、子どもの発達の道筋やその順序性において、共通して見られる特徴がある。子どもは成長するに伴い、視野を広げ、認識力を高め、自己探求や他者との関わりを深めていくが、そのためには、発達段階にふさわしい生活や活動を十分に経験することが重要である。特に、身体感覚を伴う多様な経験を積み重ねていくことが子どもの発達には不可欠であり、これらを通して、子どもの継続性ある望ましい発達が期待される。こうした観点を踏まえつつ、2. (1)で述べたような、現代の子どもたちをめぐる社会環境も考慮し、子どもの発達やその課題を踏まえた適切な対応と支援を、従来より一層、行っていくことが、重要である。

発達段階にふさわしい生活や活動を十分に経験することが重要である。特に、**身体感覚を伴う多様な経験を積み重ねていくことが子どもの発達には不可欠であり、...**

有機農業は食育、農業教育のみならず、生物多様性にも触れることのできる環境教育の拠点としても有用であるといえる

■教育機関での食育は重要な次世代教育の場

表 学校給食実施状況（公立小・中学校／学校数・生徒数）

全国		総数	完全給食	
			学校数	百分比
小学校	学校数	20,030	19,853	99.1
	児童数	6,425,754	6,397,265	99.6
中学校	学校数	9,587	8,511	88.8
	生徒数	3,202,018	2,639,510	82.4

資料：学校給食実施調査 H27年5月現在

◎原料調達には課題も...

学校栄養士の業務が過多
栄養教諭の数が少ない
コーディネーターがない
農産物の計画生産が行われていない
学校給食費が十分でない 等

▼
❁地産地消の学校給食は
食・農・環境教育(体験)面でも重要
給食を通して生産者との交流
食文化の継承も
食と農の距離が縮まる可能性
食品ロスの削減の可能性

【学校給食費】 小学校平均月額4,301円／中学校平均月額4,921円

全国学校給食の月額食材費(完全給食のみ対象)

小学校(6,397,265人×4,310円)+中学校(2,639,510人×4,921円)

= **約405億6,124万円**

様々な食・農・環境に関わる課題解決の可能性を秘めている
それが有機農業であればなおさら教育的効果は高いといえる

Vおわりに Think globally , Act locally !

◇2030年までに目指すべき世界 持続可能な開発目標 (SDGs)



世界を、日本全体を意識しつつ、地域で何を実践していくかが求められる

◇行政・地方自治体に求められる役割

農産物としてだけでなく、有機農業の多面的メリット(多面的機能)を何に、どこに采配するか、あるいは結びつける(つなげる)のかは、地域の実情に合わせて選択していかなければならない。そのためには**地域全体を俯瞰的に見ることができる行政・地方自治体**が中心となって取り組む必要がある。

最終的な目標は、地域全体で生産者と消費者がwin-winの関係を構築できる仕組み作りが求められるといえよう。

地域の食・農・環境に関わる諸問題解決には、時間はかかるものの、地域住民(国民)の食・農・環境教育が有効な一手段である。我々の生活の中には、利便性を追求してきた結果、失われたものも多い。エシカルな消費者を育てる。実はそのことが地域の活力に寄与する可能性を秘めている。有機農業はそのプラットフォームの1つではないだろうか。

ご清聴誠にありがとうございました。

